

超高齢社会に対する課題解決のための情報誌

# 月刊 終活

12

December, 2022  
vol.267  
<https://butsuji.net/>

## 葬儀特集

### 2本柱の地域密着活動で 施行件数が大幅増加

小金井祭典株式会社

## 終活特集

### 多彩なレシピ・豊富なメニューの「終活映像」

株式会社ブルーオーシャンスターズ

## お寺特集

### 地方創生をめざし、わずか数年で 50万人の初詣客を呼び込むお寺

埼玉厄除け開運大師 龍泉寺



スペシャル  
座談会



「終活アワード」受賞の3社が語る  
顧客ニーズの変化と  
未来への戦略

巻頭特集 顧客ニーズから見えてきた経営課題

# 令和を生き抜く お墓戦略

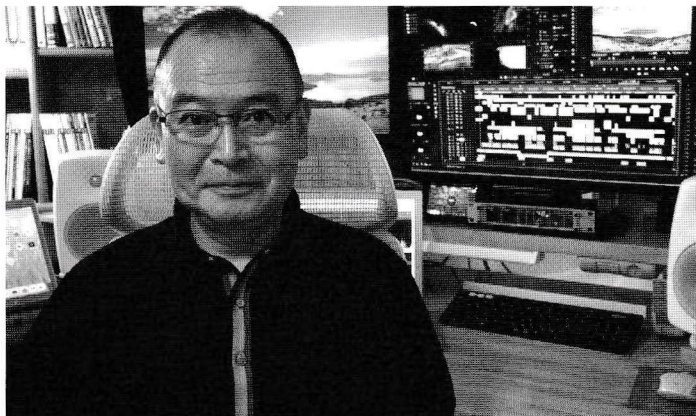
これからの成長に必要なアイデアが生まれる時、  
お墓業界のリーダーたちは何をヒントにしているのか。

# 多彩なレシピ・豊富なメニューで 自分史・遺言などの「終活映像」を提供

株式会社ブルーオーシャンスターズ 代表取締役 たかしお ひろゆき 高塩 博幸 氏



「映像調理師®」。ユニークな肩書を持つ<sup>たかしおひろゆき</sup>高塩博幸氏は、自分史・遺言などの終活映像、そして、社史などのヒストリー映像を制作する。手作りのぬくもりが伝わる、豊かな香りと深い味わいの映像づくりが信条だ。そして、世俗的な競争に巻き込まれず、これまでにない付加価値の商品を届けたいという思いから、社名を「ブルーオーシャンスターズ」とした。かつての夢にチャレンジするスタートアップは、終活世代に勇気と希望を与え、エンディング業界に新しい風を送り込む。



## エンディング産業展に初出展

### 自分史3分+遺言2分・計5分の〈nokosu〉

ブルーオーシャンスターズは今年のエンディング産業展に初めて出展。この機会に、これまで行ってきた自分史映像制作の仕事を整理して、自分史3分+遺言2分・計5分のパッケージ商品〈nokosu〉を新たにリリースし、来場者に訴求した。

「映像の仕事をしていると、何分でいくら？という質問が多く、返答に困ります。短ければ簡単にできるというものでもないので。しかし、お客さんにとっては『〇分で〇円です』『ナレーションも字幕もすべて込みです』と言った方がわかりやすいので定量化しました」と言う高塩氏。コストを抑えるためにナレーションには高性能のAIナレーターを採用している。

### 付加価値の高い終活サービス

映像コンテンツの制作では、これはかなり思い切った措置である。終活サービスの一つとして見た場合、購入希望者が値段についてあれこれ考えるストレスが減り、わかりやすく売りやすい、従って CONTACT しやすいというメリットがある。そのためか、同社のブースは小さいのにも関わらず、過去出展したどの映像制作プロダクションよりも人を集めていた。

高塩氏によると、行政書士・司法書士・不動産会社・霊園経営者などが特に関心を抱き、話を聞きに来たという。やはり終活サービスの一つとして高い付加価値になり得る可能性を感じたのだろう。誰でも手軽に動画コンテンツを作れ、YouTuber が持て囃される時代、写真や文字だけでは伝わらない情報が動画なら伝わる——そうした認識がエンディング業界でも広がり始めたようである。



エンディング産業展のブース

## ブルーオーシャンスターズ・ 高塩氏の「自分史」

40年におよぶ鉄道会社勤務から10代の夢へのチャレンジ

ブルーオーシャンスターズは東京都足立区北千住

の東京芸術センター内にある、スタートアップ企業が集まるシェアオフィスを本拠地としている。高塩氏自身も足立区在住で、同区主催の独立起業セミナーを受けたのち、2020年に会社を起ち上げた。

「映像のプロになるのは若い頃からの夢でした。私は一度、諦めた夢を取り戻したんです」

高塩氏は1962（昭和37）年生まれ。小中高と放送委員・放送部員として活躍し、映像や放送メディアの仕事に就きたいと希望していた。けれども昭和の時代は、「そんなのまともな仕事じゃない」「メシが食えない」というのが一般的な大人の意見で、それに応じて当時の国鉄に就職。分割民営化されてJRになった5年後の1992（平成4）年3月14日には、東海道新幹線のぞみ号の初列車（新大阪発・東京行き「のぞみ302号」）の初代運転士を務めた。その後も運転士養成教師、システム関連、乗務員の安全教育などを経験。そんな輝かしいキャリアの陰で、映像制作への想いは絶えず疼いていた。

そんな自分の心の声に応じて、会社の先輩の退職記念パーティーの際、その人の自分史的な映像を作って流したところ、感動して涙を流さんばかりに喜んでもらった。それがきっかけでくすぶっていたものに火が付いた。

50歳になった頃、定年退職後に映像の仕事をやると決意。同じ頃、映像会社のディレクターと出会い、週末を利用して、数年間、カメラの使い方から撮影や編集のノウハウまでプロの映像技術を学んだ。それとともに都内のシナリオ学校に通い、脚本の勉強もした。そうして自信をつけ、結局、定年を待たず早期退社して独立して歩き始めたのである。



鉄道会社勤務時代  
（上・のぞみ初列車運転中/  
左・運転後に東京駅で）



東京芸術センター外観



シェアオフィス入口

## 40年におよぶ鉄道会社勤務から10代の夢へのチャレンジ

「長年の会社勤務で“守られ癖”がついてしまっていたので、最初は正直、独立するのが怖かったです。けれども独立起業セミナーの仲間をはじめ、周囲はとても親切な人が多く、力になってもらえました」。

昭和の時代なら数千万円掛かったプロ用カメラや照明などの撮影機材・編集機材一式も、今ならその1～2割程度の費用で揃えられる。多額の資金は必要ではない。そんな時代の状況にも恵まれ、2020年3月に会社を起ち上げた。

最初は事務や経理などで高塩氏を支える予定だった妻の由美さんも、現場でアシスタントをしているうちに撮影や編集の技術を伝授され、みるみるスキルアップしてセカンドディレクターに。どうしても手が足りない時はアウトソーシングの助けを借りて仕事をこなしている。



高塩氏と妻・由美さん

創業2年半で自分史や社史、足立区政90周年関連の映像（あだちワンダフルCMグランプリ入賞）なども制作。洋々と出航したブルーオーシャンスターズは、エンディング産業展の出展を契機に次のフェーズに入ろうとしている。

## 映像調理師®の名に込めた信念

### 料理と映像づくりは同じ

「映像調理師®」は造語であり自称だが、ユニークさを感じる反面、ディレクターやプロデューサーといった横文字に慣れた人の耳には、奇異に聞こえるかもしれない。いったいどんな発想からこのネーミングが生まれたのだろうか？

聞けば高塩氏は料理が大好きで、会社員時代に調理師免許も取得しているという。一時期、弁当づくりにハマり、千食以上の弁当を作り、由美さんがブログをアップした。

「料理と映像づくりは同じなんです。良い材料を仕入れてくる。洗って切って、煮るか蒸すか焼くか揚げるか、調理法を選び、味付けをして、盛り付けて…過程はほとんど同じなんです。本当に良い素材なら塩だけで食べられるように、撮ってきた映像が良ければ、ただカットを繋ぐだけで余計なことは

しなくてもいいし、撮影した素材が良くないと工夫が必要です。でも、いろいろなエフェクトなど、調味料に頼りすぎるとゴチャゴチャしておかしな味になってしまいます」

映像調理師®という肩書は単なる洒落や一種のジョークのように見えるが、そこには食材＝被写体への敬意と、それを調理する＝映像作品に仕上げる自分の腕に対する信念が表現されているのだ。

### その人のストーリーを見つける作業

調理は、作品の土台となるシナリオ（構成・ストーリー）制作、いわば、下ごしらえから始まる。そのツール「自分史作成用白年表」は出演者へのヒアリングのために高塩氏が考案したものだ。

1926（昭和元）年から2023（令和5）年までの世の中の出来事がびっしり書かれた年表。そこに依頼者が自分の出来事——誕生・入学・卒業といった一般的なライフイベントに限らず、心を動かされた記憶、自分を変えた出逢いなどを記入。そしてその時の思いを書き入れたり、あれば写真・記念品などを書き入れていく。

もちろん、都合よくきっちり記入してくれるわけではないが、これがストーリーを練る材料になる。高塩氏はそこに書かれた経歴を見ながらインタビューをしてじっくりと話を聞き出し、その人の現在に繋がる転換点を探し出す。つまりストーリーを発見する作業だ。

「転換点は誰にでも必ずあります。しかし、ご本人が気づいていないことが多いんです。それでこの年表をもとに丁寧に掘り返していきます」

豊富な人生経験を積んだ上で、シナリオ術やインタビュー術を勉強したからこそ身に着いた技術。加えて温厚で安心感を与える人柄も、人の心を開かせる要因になっているようだ。



夫が作るお弁当  
ダンナさんのお料理好き。毎朝、お弁当の準備がはかましてくれます。

2020年03月13日

2020年03月13日  
お楽しみオムライス弁当

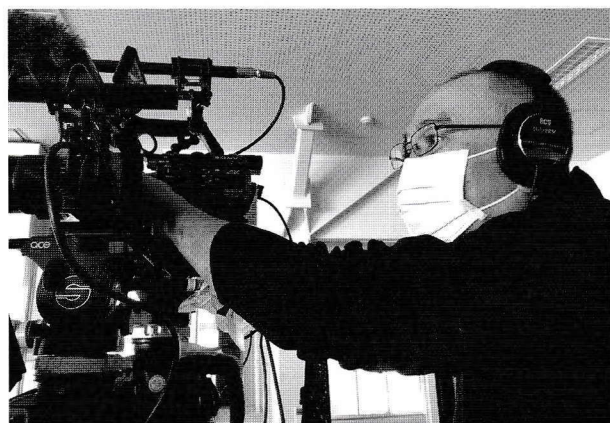
今日のお弁当は、私の大好きなオムライス。  
ふんわりオムレツの中は、とろ〜りチーズと温泉玉子とお楽しみがいっぱいでした！！  
ライスはワンナー、ピーマン、しめじ、人参、玉ねぎが入ったケチャップ味でご飯の固さ  
加減が私好み！

ハートケチャップは、いんげんの飾り付き。  
タコのバター醤油焼きは、香ばしい香りでした。  
久しぶりのデザート、いちごミルクは日くて美味しかったです！！  
家に食べたいお弁当です。  
お気に入り弁当に決定(´▽`)  
ごちそう様でした！！

メニュー  
チーズ・温泉玉子入りオムライス  
ハートケチャップ、いんげん  
タコのバター醤油焼き  
ミニトマト、スナップえんどう、ブロッコリー、かいわれ、レタス  
りんご  
いちごミルク

夫が作るお弁当ブログ

<http://hiroben.blog.jp/archives/2019-12.html>



撮影風景

## 誰もが心の中で「自分史を遺したい」と思っている

そもそも人は何をきっかけに自分史を作りたいと思うのだろうか？ 自分史を映像化したいというニーズはそんなにあるのだろうか？ そんな疑問に高塩氏は答える。

「人は齢を重ね、頭のどこかでエンディングが近くなっていることを察知すると、物理的な遺産とは別に『何かを遺したい』という思いに駆られると思うんです。それは人間の本能みたいなものかもしれません。だから潜在的に作りたと思っている人は大勢いるはずですが、ただし、誰かがその思いを刺激するスイッチを押してあげないと顕在化しません。だから『自分史を作ってみたらどうですか？』と積極的に働きかけます。作る意義を説明したり、映像なら文章を書くよりずいぶん楽ですとか、そんな話を投げかけます。そして相手に脈がありそうなら、何度もアタックを繰り返します」

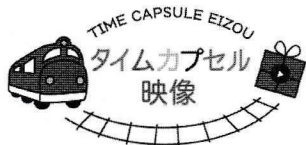
ちなみにこれまで作って来た20本ほどのうち、半分くらいは本人ではなく、家族からの注文・プレゼントだという。家族や周囲の人たちへまずアプローチするのも一つの手段だ。

「多くの方は自分の人生なんてつまらない。平凡過ぎて自分史なんて作るほどのものではないと口では言うんです。でもそれは違う。誰の人生も十分面白い。人の数だけドラマがある。私はそう思っています。そしてみんな本心では、自分だって一生懸命生きてきた。自分の人生だってまんざらじゃない—そう思いたいのではないのでしょうか。それが自分史を作る動機になるんです」

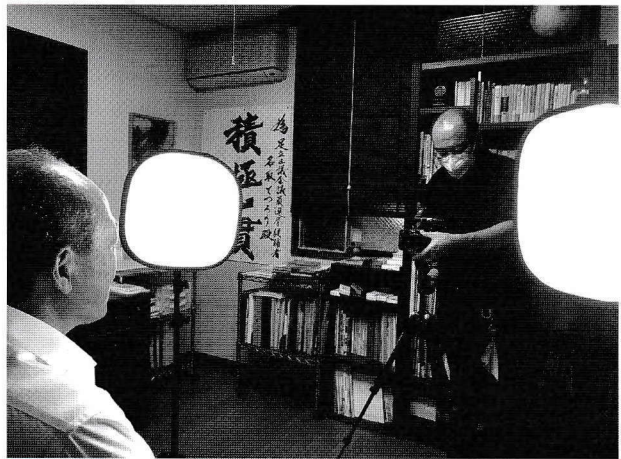
## 豊富な映像企画で終活文化を盛り上げる

### タイムカプセル映像

ブルーオーシャンスターズでは〈nokosu〉を軸に、様々な自分史



タイムカプセル映像ロゴのサービスメニューを揃えている。〈タイムカプセル映像®〉もその一つで、生前、収録した自分史・遺言映像を5年後・10年後など、未来の希望日に、メッセージを伝えたい相手に送るサービスだ。その時、もしかしたら自分はもう故人になっているかもしれない。年月を経て、この世から去った人と出逢



自分史撮影風景

う喜び・感動を演出するサービスである。

あるいはこの〈タイムカプセル映像®〉を未来の自分に送ることで、かつての自分自身と出逢うことができる。一種のエンディングノートの役割を果たし、認知症対策の一つとしても期待できる。

### 完全非対面によるリモート映像制作サービス

コロナ対策として生まれたもので、スタッフと依頼者が一切対面せずに映像を制作できるサービス。オンラインで取材を行い、それをもとにシナリオを作成。その後、さらにまたオンラインで同社の操作説明に従って依頼者が自身で撮影を行い、収録したデータを編集して納品する。もちろん離島も含めて日本全国どこでも対応しており、海外展開も考えられる。

### 死後の自分史

職人の方などが亡くなった後に仕事場・道具・遺品などを撮影。ご遺族の了承をいただき、本人の写真と、その人の人となりやエピソードについて語る周囲の人の証言インタビューを合わせて「死後の自分史」を制作した。

離れて暮らす家族に送ったところ、たいへん喜ばれたという。特に団塊の世代の方などは故郷を離れて東京などの大都市圏で就職し、人生を送って来た人も多い。そうした方（とご遺族）に向けた映像として貴重な価値があるだろう。

### 子ども自分史

自分史と言えば終活・エンディングが連想されるが、子どもの成長過程も自分史になり得る。映像機器が発達した昨今は、親が生まれた子供の写真・動画をたくさん撮るが、ほとんどの場合は撮りっぱな



して、きちんとストーリー化して編集・作品化することは稀である。ブルーオーシャンスターズではそこにも着目し、卒業・入学・成人・結婚などのライフイベントに合わせて「子ども自分史」を作ることも推奨している。

### 動画制作オンライン講座

ホームページ上で、セルフで自分史動画を作ろうと呼びかけ、「動画制作オンライン講座」を随時開いている。数多のYouTuberが活躍していることからわかるように、スマートフォンのビデオカメラ機能・フリーの編集ソフトを使えば、誰でもほとんどお金をかけずに自分史動画を制作することができる時代になった。高塩氏はビジネスだけに固執することなく、多くの人と情報・ノウハウを共有して終活文化を広めることに努めている。

### 終活市場における役割とビジョン

最後に高塩氏は、終活市場におけるブルーオーシャンスターズの役割とビジョンについて語った。

「起業してすぐにコロナ禍に見舞われましたが、むしろそれは追い風になったのかもしれませんが、なぜなら、多くの人にとって自分を見直す時間が増えたからです。人生には死というゴールがあるから、生きている時間を大切にできる——そんなことを思い巡らせる人も増えたのではないのでしょうか。

今後、終活市場はますます活性化するでしょう。私たちはその中でぜひ大勢の人に映像のもたらす力を知ってほしいと思います。葬儀社の方、終活関連のお仕事の方と協力して新しいサービス・商品を開発していきたい。豊富なサービスメニューを開発し、より多くの方に喜んでいただけるもの、心に遺るものを作っていきたいと思っています。」

【ホームページ】 <https://blueoceanstars.co.jp/>



nokosu 終活に役立つ自分史・遺言ムービーを残しませんか

## クレーン激減

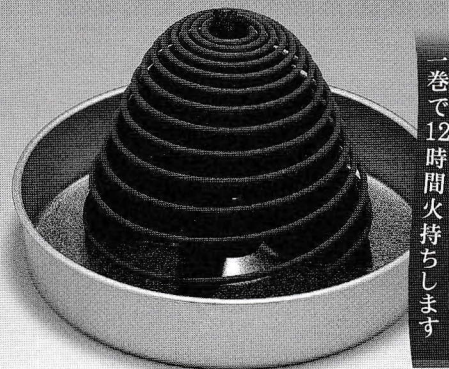
2012年5月～2016年4月《4年間》  
製造販売数量実績 578,210個

クレーン件数	24件
内訳	
製造上の不備	1件
使用時の問題	15件
輸送時の破損	5件
その他	3件

安心してお使いください。

新製法

## 渦巻線香



一巻で12時間火持ちします

創業文化元年  
香老舗 玉初堂

〒537-0025 大阪市東成区中道1丁目5番13号 TEL.(06)6975-1881(代) FAX.(06)6971-2182  
ホームページ <http://www.koh.co.jp/> ※製品カタログを用意しておりますので、お申しつけください。

